

§ 準備のいないワークショップ §

5-1 自己紹介・4つの扉のシナリオ

ワークショップリーダー：W.L.

解説：*

(参加者に、記入シートを1人1枚ずつと、太字用のフェルトペンを
できれば1人1本、あるいは2人で1本を使えるように配る。)

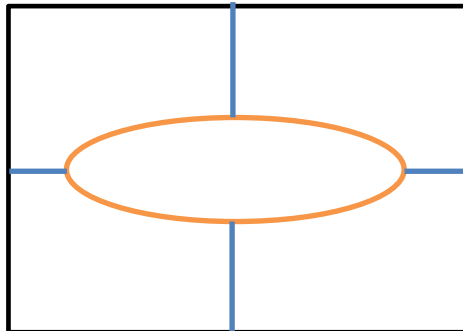
W.L. : これから「自己紹介・4つの扉」のワークショップを始めます。

「4つの扉」とは、自己紹介をするために、視覚補材として4つに分かれた記入シートを使う方法です。

このワークショップには2つの目的があります。1つ目は、自分自身を効果的に相手に伝えることです。2つ目は、書くことによって自分自身を多角的に見つめることです。

さあ、始めましょう。

(記入シートのサンプルを示しながら、)



W.L. : 最初に、真ん中の楕円に、ご自分の名前を書いてください。

次に、回りの4つの部分、つまりこれが「扉」に当たります。一つの扉に一つの言葉を書いてください。

内容は、自分がアピールしたいこと、これだけは紹介したいというものを書いてください。例えば、趣味、好きな色、好きな食べ物、これからしたいことなど、人に紹介したいことです。今、頭に浮かんだ言葉を書いてみてください。

できるだけ「単語」で書いてください。離れた人にも読めるように、はっきりとした大きな字で書くことをお勧めします。

W.L. : 「4つの扉」の目的は、短時間で自分のアピールを単語で表現し、その4つの言葉を使って、自己紹介をすることです。

単語を考えて、記入シートに書いていただく時間は1分です。私が「どうぞ」と言ったら書き始めてください。全部書けなくても構いません。1分経ちましたら合図をしますので、書くのをやめてください。

W.L. : 心の準備はできましたか。では、どうぞ。

(1分経ったら、ベルなどで合図をする。)

(ペンが足りないときは、交替で使うよう説明する)

W.L. : さあ皆さん、1分経ちました。それぞれの扉の中に言葉が入ったでしょうか。

では、いよいよ自己紹介に入りますが、まず初めに私が例を示します。

(W.L. が、記入済みのシートを使って自身の自己紹介をして、例を示す。)

*4つの扉に書いてある言葉を、一つ一つ指し示しながら話すこと。

W.L. : いかがでしたか。では、次に自己紹介していただく方を私が指名します。

Aさんお願いします。記入シートを、皆さんに見せてください。その4つの言葉を使って、自己紹介を1分をお願いします。1分経ちましたら、私が合図しますので、終了してください。(終わりましたらAさんが次の方を指名してください。)この要領で(全員に)発表していただきます。ではAさん、どうぞ、

* 記入シートは、全員に書いてもらう。

* 全員、発表する時間があるときは、1番目の発表の後、1番目の発表者に2番目の発表者を指名してもらう方法がある。

* 参加者が多い場合は、発表する人を10人くらい決めておく。

もしくは、記入シートの裏に10個くらい印をつけておいて、当たった人が発表し、制限時間まで発表を続ける。

* 1人の発表が終わったら(次の発表者を指名する前に)、W.L.はその発表の印象に残った点や良かった点を伝える。温かく肯定的に受けとめるとよい。

また、聴衆から感想や印象を聞く方法もある。

W.L. : (すべての発表が終わったら) さあ皆さん、いかがでしたか。

自己紹介と言うと、ついあれもこれも言いたくなりますが、4つにポイントを絞ることで、自分自身を、より印象づけることができましたね。

○書くことで、今まで意識していなかった自分の特徴に気がついたでしょうか。

○4つの言葉で表すことで、自分自身を多方面から見つめ直せましたか。

○何より、書いてあるので、途中で言うことを忘れませんね。

○そして聞き手は、耳から入る言葉と、目から入る文字で、話し手のことを理解しやすくなりますね。

* 時間があるときは、上記の○印4点について W.L. が説明しないで、参加者から意見や良かった点として引き出す方がよい。

意見が出なかった部分は、W.L. が最後に補完する。

W.L. : 今日は皆さんと親しくなれて、良い一日になりました。

これで「自己紹介・4つの扉」を終了します。

解 説

* 事前の準備：記入シート(参加人数分+W.L.用+サンプル用+予備)

太字用のフェルトペン(1人あるいは2人で1本使えるとよい)

参加者が多いときは最初に配布しておくで時間を短縮できる。

* 記入シートの線は、事前に印刷しておいてもよいが、その場で手書きしてもよい。

W.L.が独自に考えた記入シートを使ってもよい。

* 発表を聞いた後のW.L.の対応法

1. 自己紹介が初めての発表者のときは、参加者全員でその発表を共有してから、次の発表に移るとよい。W.L.は発表内容を否定しないように心がけ、発表者をまるごと受け入れる気持ちで進める。
2. 発表の後、W.L.がその発表の印象に残った点や良かった点を伝え、また聴衆から感想や印象を聞くことで、W.L.として発表への対応能力を磨く練習になる。
3. 例会の「今日の話題」など、よく知っているグループで行うときは、テンポよく進めるとよい。

* アレンジとして「他者紹介」にも応用できる。

A. 2人一組になって、自分について4つの言葉を記入シートに書いて、お互いに自己紹介する。

発表は相手を書いた記入シートを使って、相手のことを「他者紹介」する。

B. 2人一組になって、自分について4つの言葉を記入シートに書いて、お互いに自己紹介する。その後、相手から聞いた話を、4つの言葉に表現し直して、もう一枚の記入シートに書く。自分で書いたもう一枚の記入シートを使って、相手のことを「他者紹介」する。

(A.よりもチャレンジを必要とする。)

* この「他者紹介」は、紹介スピーチの練習になる。

特に、お互いをよく知っているグループのときは、効果が高い。

以上

<ITC-J 第36期 教育資料委員会 >

作者：烏谷まゆみ 浦濱恭子 齊木ゆかり 山口久美子